

## 2022年度 自己点検・評価報告書

## [第4章] 教育課程・学習成果

## 4.1. 現状説明

## 4.1.1. 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示したディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を適切に設定し、公表しているか。

本学では、大学全体レベル及び、学位プログラム（学科）レベル及び大学院全体レベル、研究科レベルにおいて、学位授与方針を定め公表している（資料 D-1）。

大学全体レベルにおける学位授与方針は、建学の精神に基づいた教育理念・目的に従い、「専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解し、文理融合の幅広い教養を身につけ、学則に定める修了要件を満たすとともに、自らの考えをもち、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、改善していく自主性や創造性を身につけたと認められるものに学位を授与する」としている。さらに、この学位授与の方針を具現化したものとして、本学の学修を通して身につけるべき具体的な社会的実践力「自ら考える力」「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」の「4つの力（12構成要素）」として表している（資料 A-5～7）。

学位プログラム（学科レベル）における学位授与方針は、「学士力」の概念規定に準じて、「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」の3つの観点に関して、各学位プログラム（学科）における教育研究上の目的及び養成する人材像に基づき、学位を授与するにあたっての具体的な達成目標として策定されている（資料 A-6）。学位プログラムレベルにおける3つのポリシーの策定にあたっては、全学部共通の策定方針や策定内容および書式等の詳細を定めた、「大学院3つのポリシー策定基本方針」を作成し、各ポリシーの適切性の担保を図っている（資料 B-15）。

本学大学院全体では、学則に定める修了要件及び、本学の「建学の精神」と教育の理念を體現し、「修士課程及び博士課程前期」、「博士課程及び博士課程後期」が定める要件（資料 A-7）を満たすとともに、論文または特定の課題についての研究成果の審査で認められた者に対して学位を授与するとしている。

各研究科においては、「修士課程及び博士課程前期」、「博士課程及び博士課程後期」ごとに学位授与方針として、学位の授与にあたって備えるべき「知識・技能・能力」に関する具体的な要件を明示している（資料 A-7）。研究科レベルにおける3つのポリシーの策定にあたっては、全研究科共通の策定方針や策定内容および書式等の詳細を定めた、「大学院3つのポリシー策定基本方針」を作成し、各ポリシーの適切性の担保を図っている（資料 B-15）。

以上の内容は、授業要覧（資料 D-2）大学院要覧（資料 D-3）や東海大学オフィシャルサイト（資料 A-6、7）で学内外に公表されているのに加え、各授業科目シラバス（資料 D-4）にも反映している。

また、児童教育学部、体育学部、健康学部、工学部、情報通信学部、海洋学部、農学部では、新入生ガイダンスや学期始めガイダンス等にて、学位授与方針について説明を行っている（資料 D-5～12）。さらに、児童教育学部、情報通信学部、人文学部、医学部、農学部、国際文化学部では、初年次教育科目である入門ゼミナール等の授業科目内にて説明を行い、さらなる周知理解を図っている（資料 D-13～19）。

研究科においては、17 研究科中 16 研究科で、新入生ガイダンス等による学位授与方針の説明を行っており、特に体育学研究科、海洋学研究科では、大学院科目においても説明を行い周知理解を図っている（資料 D-20～22）。

#### 4.1.2. 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

評価の視点 1：授与する学位ごとに教育課程の編成・実施方針について、体系、教育内容、構成する授業科目区分、授業形態等の内容を適切に設定し、公表しているか。  
 評価の視点 2：教育課程の編成・実施方針とディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に適切な関連性があるか。

本学では、大学全体レベル及び、学位プログラム（学科）レベル及び大学院全体レベル、研究科レベルにおいて、教育課程の編成・実施方針を定め公表している（資料 A-5～7）。

大学全体レベルにおける教育課程の編成・実施方針は、大学全体レベルのディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に基づき、明確に体系化された教育課程として策定されている。具体的には、本学のコア科目である区分Ⅰ「現代文明論」を中心に、区分Ⅱ「現代教養科目」、区分Ⅲ「英語科目」、区分Ⅳ「主専攻科目」、区分Ⅴ「自己学修科目」として体系化されている（資料 A-6、7、D-2、3）。

学位プログラム（学科）レベルにおける教育課程の編成・実施方針は、学位プログラム（学科）レベルのディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に基づき、かつ大学全体レベルの教育課程の編成・実施方針に従って策定されている。区分Ⅰ、区分Ⅱ、区分Ⅲ及び区分Ⅴは、原則全学共通として教育課程が編成されており、区分Ⅳ「主専攻科目」は、各学部学科の教育研究上の目的及び養成する人材像、及びディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を具現化するための主たる教育課程として編成されている（資料 A-6、D-2）。これらの教育課程で設定されている教育体系、教育内容、授業科目区分、授業形態等の内容については、授業要覧及びシラバスにて明示され公表されている（資料 D-2、4）。

また、国際学部、児童教育学部、体育学部、健康学部、情報理工学部、工学部、情報通信学部、海洋学部、農学部では、新入生ガイダンスや学期始めガイダンス等にて、**教育課程の編成・実施方針**について説明を行っている（資料 D-5～12、23、24）。さらに、児童教育学部、情報通信学部、人文学部、医学部、農学部、国際文化学部では、初年次教育科目である入門ゼミナール等の授業科目内にて説明を行い、さらなる周知理解を図っている（資料 D-13～19）。

学士課程においては、教育課程の編成・実施方針とディプロマ・ポリシーとの関連の適切性の確認及び明示のために、2022 年度よりカリキュラムマップの作成公表を行っている（資料 B-12）。導入したカリキュラムマップは、本学が定める大学全体レベルのディプロマ・ポリシー全学共通 12 項目及び、学位プログラムレベルのディプロマ・ポリシー学士力

3項目と、各開講科目との関係性を明示するものとなっている（資料B-11）。

各学部における2022年度自己点検・評価報告書の内部質保証推進委員会による点検・評価（資料D-25）として、カリキュラムマップによるカリキュラムアセスメントに関する設問に対して、「カリキュラムアセスメントを行っている（9/23学部39.1%）」、「今後、カリキュラムアセスメントを行う予定である（14/23学部60.9%）」であった。これより、カリキュラムマップ導入による学部・学科の「学習者本位の教育課程」に向けた意識改革が進み、今後の成果に期待できるものと評価できる。

また、カリキュラムマップそのものを点検・評価した結果、全体的な傾向として、大学全体レベルのディプロマ・ポリシーの内、講義系の科目では「自ら考える力（学習力）（思考力）」が比較的多くなっているものの、学位プログラムレベルのディプロマ・ポリシーに関しては、各項目に適切に配置されているものと評価できる（資料D-26～28）。

大学院全体における「博士課程及び博士課程後期」では、リサーチワークを中心とした高度に専門的な教育課程を編成すること、「修士課程及び博士課程前期」では、コースワークとリサーチワークをバランスよく教育課程を編成することを主旨として、教育課程の編成・実施方針が策定されている（資料D-3）。

各研究科（「博士課程及び博士課程後期」「修士課程及び博士課程前期」）における教育課程の編成・実施方針は、各研究科が定める教育研究上の目的及び養成する人材像、及びディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を具現化するための教育課程を編成することを目的に策定されている。さらに、各研究科における教育課程の編成・実施方針において、学修成果の評価方法として学位論文審査基準を明記し、大学院生の学修目標としている（資料A-7、D-3）。

研究科においては、17研究科中12研究科で、新入生ガイダンス等による教育課程の編成・実施方針の説明を行っており、特に体育学研究科では、大学院科目においても説明を行い周知理解を図っている（資料D-20、21）。

#### 4.1.3. 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

評価の視点1：各学部・研究科の教育課程編成において、以下の項目を適切に措置しているか。

1. 教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性
2. 教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮
3. 単位制度の趣旨に沿った単位の設定
4. 個々の授業科目の内容及び方法
5. 授業科目の位置づけ（必修、選択等）
6. 各学位課程にふさわしい教育内容の設定

（＜学士課程＞初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等

＜修士課程、博士課程＞コースワークとリサーチワークを適切に組み合

わせた教育への配慮等)

7. 教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり

評価の視点2：学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施しているか。

各学部学科・研究科では、それぞれのディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラム・ポリシーに従って、各学位課程にふさわしい授業科目を体系的に開講している。

科目の設置にあたっては、学部学科では「学科目」、研究科では「分野・領域」を定めて、専門分野の学問体系を明確にしているとともに、科目グレードナンバー及び、カリキュラム体系図（カリキュラムツリー、履修モデル）によって順次性、体系性を細かく担保している（資料 D-2、3）。

各授業科目は、授業形態に従った単位数を設定するとともに、修得すべき内容に必要な授業内容と時間数（予習・復習を含む）をシラバスにも明示し、適切な単位を担保している。

各授業科目は、各学部学科・研究科が定めるディプロマ・ポリシーならびに、専門とする学問分野の体系性などに基づき、必修科目、選択必修科目、選択科目として位置づけられている（資料 D-2、3）。さらに、各授業科目の目的・学修内容、科目の学修成果目標（ラーニングアウトカム）、開講学期、グレードナンバーや先修条件の設定、他科目との関連などの情報は、全てシラバスに記載され公表されている（資料 D-4）。

学士課程においては、大学での学修の基礎となる初年次教育科目、高等学校からの学びの連続性に配慮した授業科目を、各学科の特性に即して開講している。また、専門に偏ることなく幅広い教養を学生に身につけさせることを意図して、「現代文明論（区分Ⅰ）（2単位）」「現代教養科目（区分Ⅱ）（12単位）」「英語科目（区分Ⅲ）（4単位）（2022年度入学生より）」が必修科目として設定されているとともに、「自己学修科目（区分Ⅴ）」にも選択科目として専門系科目及び教養系科目が幅広く開講されている。

大学院においては、カリキュラム・ポリシーに明記されているように、「博士課程及び博士課程後期」の開講科目は、リサーチワークを中心とした高度に専門的な教育課程が編成されており、「修士課程及び博士課程前期」では、コースワークとリサーチワークがバランスよく配置されるよう編成されている（資料 D-3）。大学院における各教育課程の内容、授業科目内容や授業形態などは、授業要覧及びシラバスに明示し公表している（資料 D-2～4）。さらに、各研究科学位課程において、それぞれ研究指導計画を定め、大学院生に対して適宜公表説明を行っている（資料 D-29、30）。

学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育として、1年次生全員に冊子「キャリアガイドブック（キャリアデザイン編）2022」（資料 D-31）を配布し、全学共通開講科目である入門ゼミナールBなどの初年次教育科目の中で、利用を推進している。

教育課程の編成における全学共通の基本的な方針や規則等の詳細に関しては、東海大学教育審議会において審議決定され、「カリキュラム編成・運用ガイドライン（資料 D-32）」として明示され、各学部・学科は、本ガイドラインに従って教育課程の編成を行うことになる（医学部等一部学部学科を除く）。さらに、カリキュラム自体は、ディプロマ・ポリシーの達成及びカリキュラム・ポリシーを具現化したものであり、本学では、全学共通（大

学レベル及び学位プログラムレベル（学科レベル）で、ディプロマ・ポリシーと各科目との関係性を表わしたカリキュラムマップ、カリキュラムにおける各科目の体系性及び、基本的な履修の順序を表わしたカリキュラムツリー及び履修モデルを作成し、カリキュラムの適切性及び体系性の確保を図っている（資料 D-2）。

カリキュラムに関する教育の内部質保証の観点による適切性の確認は、毎年度、学部及び研究科における自己点検・評価報告書により確認を行っており、内部質保証推進委員会による点検・評価を経て、各学部・研究科評価委員会にフィードバックされ、PDCA サイクルに則った改善が図られている（資料 B-9、10、D-25）。

#### 4.1.4. 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

評価の視点1：各学部・研究科において、授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うために、以下の項目について適切に措置しているか。

1. 各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置  
（1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等）
2. シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）及び実施（授業内容としラバスとの整合性の確保等）
3. 授業の内容、方法等を変更する場合における適切なシラバス改訂と学生への周知（追加）
4. 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法（教員・学生間 や 学生同士のコミュニケーション機会の確保、グループ活動の活用等）
5. <学士課程>
  - ・ 学習の進捗と学生の理解度の確認
  - ・ 適切な履修指導の実施
  - ・ 授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示
  - ・ 授業形態に配慮した1授業あたりの学生数
6. <修士課程、博士課程>
  - ・ 研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示と、それに基づく研究指導の実施
7. 各学部・研究科における教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり（教育の実施内容・状況の把握等）

#### ※COVID-19 への対応報告を追加【必須】

各学部・研究科等は、通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19 への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動においてどのような工夫を講じたかを記述。また、こうした教育活動の効果についても

## 記述。

本学学士課程における卒業単位数は124単位（医学部医学科除く）であり、各科目の設定単位数は授業形態により、講義・演習科目は週1コマ100分14週で2単位、実験・実習・実技科目は週1（2）コマ200（400）分14週で1（2）単位と設定している。2022年度入学生より、学生が1学期に履修できる単位数は、予習、復習に必要な時間数に鑑み1学期あたり24単位から20単位に減じており（児童教育学部児童教育学科、工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻及び医工学科、医学部医学科及び看護学科を除く）、適切であると考えられる（資料D-33）。

大学院各学位課程における修了要件単位数は、修士課程及び博士課程前期（2年間）で30～36単位、博士課程（前後期5年間）で30～48単位と定められており、1学期に履修できる単位数の上限設定は設けていない（資料A-9）。

各学部・研究科において、シラバスは全科目で公開されており、学生・大学院生が授業の内容や方法について事前に行うことができるよう科目の要旨・概要、科目の学修成果目標（ラーニングアウトカム）、成績評価の基準・方法、授業スケジュール、各回における予習・復習などを明示している（資料D-4）。また、シラバスは、当該の各学科、研究科専攻で学科長・専攻長または教務委員の精査承認の上公開される。さらに、「授業についてのアンケート」を全ての授業で実施し、授業内容とシラバスとの整合性の確保などについて検証している（資料D-34～38）。さらに、シラバスの記載は、毎年度実施しており、授業内容の変更等に対応している。

学士課程における、学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法への取り組みについては、各科目を統括・管理する学部学科、各センターのFD委員会等で検討され、アクティブ・ラーニングなどの導入も図られている（資料D-39、40）。また、本学では副専攻制度を導入し、学生の主体的学びを促している。さらに、キャンパス間留学制度（資料D-41）、海外研修航海（資料D-42）、チャレンジプログラム（資料D-43）などは、本学独自に開講されているプログラムであり、学生の主体的参加を促す方策である（資料D-41～43）。

本年度における副専攻制度（副専攻+特定プログラム）の認定者は、390名（2021年度315名）であった。キャンパス間留学制度利用者数は、25名（2021年度9名、2020年度10名（新型コロナウイルスの影響と考えられる）2019年度49名）であった（資料D-44）。また、海外研修航海も、新型コロナウイルスの影響により、2020・2021年度は中止となったが、本年度は、国内航路にて実施することとし参加者は、84名であった（資料D-45）。チャレンジプログラム参加学生数は、1275名（2020年度1081名、2019年度879名）であった（資料D-46）。学生の自主的な学びを促すこれらの施策については、新型コロナウイルスの影響を大きく受けているものの、いずれも継続実施できたことは評価できると考えられる（資料D-41～43）。

2022年度より学士課程において、教育の内部質保証に資する全学的重点施策として、個々の科目の授業の改善・向上を目的に、各授業科目における具体的な評価基準とディプロマ・ポリシーとの関係性を反映した、共通ルーブリック及び、学習の進捗状況や学生の理解度の把握のために、授業詳細（コマ）シラバスと授業理解度調査の導入を図っている（資料B-11）。共通ルーブリックは、2022年度カリキュラムにおいて、本年度開講される

科目について作成、授業詳細（コマ）シラバスと授業理解度調査は、教員1名が最低1科目の実施を目標に、2025年度までに達成させるよう取り組んでいる。

2022年度における本取組状況としては、23学部中14学部が実施している。特に、児童教育学部、理学部、法学部、体育学部及び生物学部では、共通ルーブリックの本年度導入率が75.1%～95.2%となっており、積極的な取り組みが見られ高く評価できる（資料D-47）。授業詳細（コマ）シラバス及び授業理解度調査については、本年度政治経済学部、情報理工学部、工学部及び医学部看護学科における一部教員（資料D-48）が実施しているものの、実施率は全体として低く、次年度以降の実施推進に向けた取り組みを内部質保証推進委員会を中心に検討を行う予定である。

学士課程の履修指導については、学期開始時に履修指導日等を設定し、学生個別の指導にあたっている。また、全教員が事前に週1回、曜日時間を「オフィスアワー」として設定公表し、学生からの質問相談を受けることになっている（資料D-49）。

授業外学習となる予習・復習の内容に関しては、各授業コマ毎の内容に即して、事前にシラバスに記載することになっている。また、レポート課題や試験などに関するフィードバックについても、シラバスに記載がなされている。

学士課程の授業における履修者人数については、英語必修科目などは学習効果を考慮して、1クラスの履修人数を40名程度と設定している。しかしながら、各学部学科の専門科目においては、講義科目では履修推奨 Semester 在籍学生数や、単位の取得状況などを勘案し、適切な履修者数での授業実施ができるよう調整・配慮している。また、実験・実習系の科目では、実験室の容量や実験機材の数量などから、履修学生数を予め設定している場合がある。なお、2021年度～2022年度における、授業形態別の平均履修者数は、講義科目で約42名、実験・実習系科目で約25名となっている（資料D-50）。

大学院各学位課程においては、これまで研究指導教員からの研究指導により多くの学位が授与されている。2017年度認証評価及び2021年度改善報告検討結果において、指摘されている、研究指導計画や年間スケジュールの作成・明示については、2022年度現在、全研究科にて改善がなされていることを、大学評価審議会にて確認している（資料D-51）。

各学部・研究科における教育の実施にあたっては、それぞれの自己点検・評価活動に基づいて改善・向上を図っている。各学部・研究科における自己点検・評価活動の基本的な方針やそれに基づく全学的施策の策定は、大学評価審議会及び内部質保証推進委員会が担っており、各学部・研究科評価委員会と連携して、施策の実施や自己点検・評価活動を行っている。

#### ※COVID-19への対応報告（大学全体）

緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などが発令された2020年度、2021年度のコロナ禍における授業運営は、これまでに経験のないライブ型やオンデマンド型の「遠隔授業」が中心で、未曾有の状況下とは言え、コロナ禍前の教育効果を担保できたかと言えば疑問も残る。この点ならびに文科省の方針（資料D-52 文科省「令和4年度の大学等における学修者本位の授業の実施と新型コロナウイルス感染症への対策の徹底等に係る留意事項について（周知）」2022. 3. 22）も鑑みて、2022年度からの授業は、原則「面接またはブレント型：面接」を基本とした。ここでいう「面接授業」とは、すべての授業時間数を面接（対

面)で行うことを、「ブレンド型：面接授業」とはすべての授業時間数のうち少なくとも半分の時間数が「面接授業」で行うことと定義している(資料 D-53 遠隔授業の導入に向けたガイドライン Version2)。また、本学では、2022年1月に新型コロナウイルス感染症に対する5段階の「学内警戒レベル」をあらたに設定した(資料 D-54 東海大学オフィシャルサイト)。この学内警戒レベルは、その時々々の政府、自治体の動向を参考にしつつ学内の感染状況などを鑑み大学が決定することとしており、2022年4月以降は伊勢原校舎を除き、「十分な感染対策をした上で、原則試験人数で面接授業実施可。必要不可欠な場合、現地対策本部の許可のもと、収容人数で面接授業実施可。」とする“警戒レベル1”として授業運営が計画された。4月の授業開始時点における全学部(大学院を除く)の「面接またはブレンド型：面接」実施予定率は85%である。なお、この2年間の経験から、文科省が示す学生が修得した卒業に必要な単位数に占める「遠隔授業科目」の単位数の制限(60単位以下)の枠内において、遠隔形式で開講することが望ましい、あるいはメリットがある科目については、一定程度「遠隔授業科目」として実施できることとし(資料 D-53 遠隔授業の導入に向けたガイドライン Version2)、「遠隔授業」はオンライン(LIVE)型での実施を基本とした。これはオンデマンド型で実施した場合の受講方法や課題提出(後でやればよいと考え間に合わないなど)に対するデメリットを考慮したものである。ただし、ネットワークトラブルにより配信・受信できない、前後に面接授業がある場合の学内での受講場所確保の問題も考えられるため、オンライン(LIVE)型の遠隔授業では、必ず録画して授業後に復習も兼ねた視聴ができるようにすることとしている。シラバスには、毎回の授業内容欄に面接授業が遠隔授業かがわかるように明記することで、学生の履修計画の参考になるようにしている。

以上のように、対面による学生同士や学生と教職員との間の人的な交流の重要性を考慮した面接授業を基本としつつも、遠隔授業のメリットを活かした授業運営を行うことで、学生はもとより教員の授業に対する意識改革が促され、コロナ禍の2年間と比べて教育効果の向上が期待される。

なお、以上の授業形式は、学士課程の授業を対象とし、大学院各学位課程には適用しない。大学院では、教員が最も教育効果が高いと判断する形式で実施することとした。

#### 4.1.5. 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

評価の視点1：成績評価及び単位認定を行うにあたって、以下の項目を適切に措置しているか。

1. 単位制度の趣旨に基づく単位認定
2. 既修得単位の適切な認定
3. 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置
4. 卒業・修了要件の明示
5. 成績評価及び単位認定に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり



評価の視点2：学位授与を行うにあたって、以下の項目を適切に措置しているか。

1. 学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示
2. 学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置
3. 学位授与に係る責任体制及び手続の明示
4. 適切な学位授与
5. 学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり

本学においては、学士課程及び大学院における成績評価、単位認定及び学位授与に関しては、関連規定・内規等に従い全学共通の制度のもと運用されている。

本学の学士課程における各学期の上限単位数は20単位（2022年度入学生より）（児童教育学部児童教育学科、工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻及び医工学科、医学部医学科及び看護学科を除く）であり、各授業科目を履修登録し、受講の上、試験等を経て合格した場合に単位が認められ、修得単位数として積算される。また、他大学からの編入学生や既卒者に対しては、既修得科目の科目名称や内容と、入学する当該学部学科の科目との整合性を学部学科で精査の上、学部教授会の議を経て科目と単位が60単位を超えない範囲で認定される（資料 A-8 第23条の2）。

大学院各学位課程においても、単位の認定は単位制度の趣旨に基づき、学士課程同様に適切に行われている。大学院における、既修得単位の認定は10単位を超えない範囲で研究科教授会の議を経て認定される（資料 A-9 第20条 4）。

学士課程では、各科目の成績評価の客観性や厳格性を担保するために、シラバスに成績評価の基準を明記している（資料 D-4）。さらに、2022年度より、各授業科目とディプロマ・ポリシーとの関係性を評価指標とした、大学共通の書式によるルーブリックを、内部質保証推進委員会の主導により導入している。また、卒業要件については、学則ならびに授業要覧に明示されており（資料 A-8、9 D-2、3）、修得単位数、学位論文の提出と口頭発表及び口頭試問等の審査のほか、学部教授会での卒業判定会議（資料 A-11）を経て、学部長会議メンバーによる最終的な卒業判定会議（資料 D-55）をもって卒業判定を適切に行っている。

大学院における各学位課程での学位論文審査では、「東海大学学位規程（資料 D-1）」に従って、各研究科で学位論文審査基準が定められ、大学院要覧、カリキュラム・ポリシーに明示公表されている。学位論文審査においては、研究科・専攻にて複数の大学院指導資格教員（博士課程及び博士課程後期の場合、学位論文審査委員会）による校閲と公聴会、あるいは口頭発表（修士課程及び博士課程前期）によりその適切性が審査されている。最終的には、研究科教授会における判定（論文審査投票）を経て、大学院研究科運営委員会にて承認される（資料 A-12）。

#### 4.1.6. 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

評価の視点1：各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標を、適切に設定しているか。

評価の視点2：学習成果を把握及び評価するための方法の開発に取り組んでいるか。

**評価の視点3：学習成果の把握及び評価の取り組みに対する全学内部質保証推進組織等の  
関わり。**

学士課程における、学生の学習成果を測定するための指標は、各授業の成績評価、取得単位数、GPA、外部英語力テスト（GTEC）、TIPS 学生記録、退学・除籍率などのほか、「授業についてのアンケート」を積極的に全科目にて実施、その集計・分析結果を各教員にフィードバックしている（資料 D-34～38）。また、各学士教育課程における学修成果を可視化する取り組みとして、PROG テストによる大学全体レベルのディプロマ・ポリシーである、「4つの力（12構成要素）」を主体とした「4つの力」のアセスメント（ジェネリックスキル測定）を1年次及び3年次に実施し、学修成果の把握を図っている（資料 D-56、57）。この「4つの力」アセスメントの結果は、大学全体、学部・学科、受験者個人ごとに集計分析され、各組織、個人に解説付きでフィードバックされている（大学全体、学部学科における結果は、「4つの力」アセスメント全体傾向報告書（2022）（資料 D-58）参照）。さらに、学位（学士）授与数、卒業時アンケート、キャンパスライフアンケート、就職率・就職先調査等を実施し、学修成果の把握に努めている（資料 D-59）。（東海大学のアセスメント・ポリシー（資料 A-6））

なお、大学院の科目についても Web 上で「授業についてのアンケート」調査が行われており、その結果に応じて教育課程や教育内容・方法の質的向上につなげる努力を行っている（資料 D-37、38）。また、大学院については、個別的な指導が中心となるので、学修成果は研究指導教員が日常的に学修状況を把握しており、その学修成果は学位授与判定時にディプロマ・ポリシーに関する達成度として評価し可視化する取り組みを、全学的に推進している。

2022年度より、学修（習）成果の把握と評価を図るために、内部質保証推進委員会の主導により、種々の取り組みについて、既述のとおり導入を図っている。具体的には、学士課程では、カリキュラムマップの改善、シラバスの改善、大学共通ルーブリックの導入、授業詳細シラバス（コマシラバス）と授業理解度調査の導入などの施策を推進している（資料 B-11）。大学院では、研究指導スケジュールおよび研究指導計画書の作成の徹底化、カリキュラム・ポリシーにおいて学修成果としての学位授与に関する詳細な要件、学位審査の方法等の明文化の徹底を図っている。これらの取組の評価は、大学院・学部における自己点検・評価報告書によって行われ、大学評価審議会、内部質保証推進委員会の点検・評価を経て、フィードバックされる。

今後の課題としては、卒業生に対して、卒業後の状況や就職先での評価などの意見聴取は行われていないので、今後、実施に向けて検討を行う。

**4.1.7. 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。**

また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

**評価の視点1：各学位課程において学習成果の測定結果を適切に活用し、教育課程及びその  
内容、方法の適切性を定期的に点検・評価しているか。**

**評価の視点2：自己点検・評価結果及び外部評価に基づいた改善・向上が行われているか。**

教育課程及びその内容、方法の適切性については、東海大学教育審議会で議論され、概

ね4年ごとに教育課程の改善に向けた、大学全体としての方向性や枠組みなどを公表し導入を図っている（資料 D-32）。また、各学部学科、研究科では、シラバスを毎年度、学科長・研究科長及び教務委員及び研究科・学部等評価委員会による点検・承認を経て公開している（資料 D-4）。また、学士課程では、全学的にすべての授業を「授業についてのアンケート」調査対象としており、その集計・分析結果は、各教員のみならず、学内にて公開されており、FD活動などを通して改善の取り組みがなされている（資料 D-34～40）。また、授業についてのアンケート調査をもとに、学生が選ぶ良い授業に対して「ティーチング・アワード」表彰を行い、教育の改善・向上に関するインセンティブとしている（資料 D-60）。

さらに、毎年度 PROG テストによる大学全体レベルのディプロマ・ポリシーである、「4つの力（12 構成要素）」を主体とした「4つの力」のアセスメント（ジェネリックスキル測定）の結果を、個人レベルから学部学科・大学レベルにおいて集計・分析を行い、専門家による解説を含めてそれぞれにフィードバックすることにより、教育課程の改善・向上を図っている（資料 D-56～58）。

毎年度、自己点検・評価は大学全体及び、各学部・研究科を対象として実施しており、各部署から提出された自己点検・評価報告書は、学外委員を含む大学評価審議会による点検・評価を経て各部署にフィードバックされ、大学全体及び各部署における改善・向上がなされている（資料 B-9、D-25）。

## 4.2. 長所・特色

学部の授業のみならず、大学院の授業についても「授業についてのアンケート」を実施しており、各学位課程における学習成果の把握に努めている。

学士課程において、毎年度PROGテストによる大学全体レベルのディプロマ・ポリシーである、「4つの力（12構成要素）」を主体としたジェネラルスキルテスト「4つの力のアセスメント」を1年次及び3年次生に実施、その集計・分析結果から学修成果の把握に努めている。

## 4.3. 問題点

（大学全体）

本学の卒業生に対して、卒業後の状況や大学で培った知識・能力などの有用性、就職先での評価などの意見聴取に向けた検討が、内部質保証推進委員会を中心に進められているが、具体的な実施には至っておらず、次年度への継続課題となっている。

### 【前年度記載の問題点の改善状況】（大学全体）

昨年度の問題点として、本学の卒業生に対して、卒業後の状況や大学で培った知識・能力などの有用性、就職先での評価などの意見聴取が行われていないので今後、実施に向けて検討を行うことを掲げていたが、2022年度実施に向けた検討を内部質保証推進委員会を中心に進められた。具体的な実施については、次年度への継続課題となった。

## 4.4. 全体のまとめ

本学学士課程では大学全体レベル及び、学位プログラム（学科）レベルにおいて、学位

授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を適切に策定し、授業要覧や東海大学オフィシャルサイトにて公表している。また、教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程における教育課程の基本的要件（順次生、体系性、単位設定等）を満たし、かつ学士課程では、初年次教育や教養教育と専門教育の適切な配置等、大学院ではコースワークとリサーチワークの適切な配置などを考慮して、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を具現化した教育課程を体系的に編成している。

学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための処置として、単位の実質化を図るために、履修登録単位数の上限を1学期20単位（2022年度入学生より）としている。また、シラバスの内容については定期的に改善を図り、記載内容の充実と高度化に努めている。学生への履修指導は、学期始めの履修指導日の設定や、毎週の定期的なオフィスアワーの活用を行っている。大学院では、研究指導計画及び年間スケジュールを全研究科各学位課程において策定し、指導・公表を行っている。

成績評価及び単位認定においては、その客観性、厳格性を担保するために、成績評価基準の明確化と公表、単位制度の趣旨に従った単位認定の必要要件の明確化と公表を行っている。また、大学院全研究科各学位課程における学位論文審査基準並びに審査手続きは、授業要覧及び教育課程の編成・実施方針に明記されており、各研究科において厳格に実施され、大学院全体でも最終的な審査承認手続きがなされている。

学位授与方針に明示した学習成果の把握及び評価のために、学士課程及び大学院において、授業科目ごとに実施される「授業についてのアンケート」の集計・分析を実施している。さらに、学士課程においては、大学全体レベルとしては、毎年度PROGテストによる大学全体レベルのディプロマ・ポリシーである、「4つの力（12構成要素）」を主体としたジェネラルスキルテスト「4つの力のアセスメント」を1年次及び3年次生に実施、その集計・分析結果から学修成果の把握に努めている。また、学位プログラムレベル及び授業科目レベルでは、「カリキュラムマップ」、「共通ルーブリック」の導入、「授業詳細（コマ）シラバス」、「授業理解度調査」の導入推進などが図られている。

教育課程及びその内容、方法の適切性について、東海大学教育審議会での全体的な議論、「授業についてのアンケート」及び、前述の「4つの力のアセスメント」等による集計・分析結果により検討を行っている。また、毎年度、自己点検・評価は大学全体及び、各学部・研究科を対象として実施しており、各部署から提出された自己点検・評価報告書は、学外委員を含む大学評価委員会による点検・評価を経て各部署にフィードバックされ、大学全体及び各部署における改善・向上がなされている。

## 4.5. 根拠資料

A-5 東海大学オフィシャルサイト（理念・憲章）<https://www.u-tokai.ac.jp/about/philosophy-history/concept/>

A-6 東海大学オフィシャルサイト（教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー（学部）、アセスメント・ポリシー）<https://www.u-tokai.ac.jp/about/philosophy-history/policy/>

A-7 東海大学オフィシャルサイト（教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリ

- シー（大学院） <https://www.u-tokai.ac.jp/about/philosophy-history/graduate-policy/>
- A-8 東海大学学則
  - A-9 東海大学大学院学則
  - A-11 東海大学学部教授会規程
  - A-12 東海大学大学院研究科教授会規程
  - B-9 自己点検・評価体制図
  - B-10 PDCA サイクル図
  - B-11 教育の内部質保証マニュアル
  - B-12 211201 学部長依頼通知文書
  - B-15 大学院3つのポリシー策定基本方針(2022年度版)
  - D-1 東海大学学位規程
  - D-2 2022年度 東海大学授業要覧 全学部
  - D-3 2022年度 東海大学大学院要覧
  - D-4 授業内容・計画（シラバス） <https://www24.tsc.u-tokai.ac.jp/syllabus/SYLSCHTOP>
  - D-5 2022 新入生ガイダンス（児童教育学部）
  - D-6 2022 年度学科ガイダンス等資料(体育学部)
  - D-7 新入生学科ガイダンス説明資料(健康学部)
  - D-8 ディプロマ・ポリシー(工学部)
  - D-9 カリキュラム・ポリシー(工学部)
  - D-10 情報通信学部紹介\_新入生ガイダンス
  - D-11 新入生ガイダンス(海洋学部)
  - D-12 2022 年度秋学期ガイダンス日程表(農学部)
  - D-13 東海大学児童教育学部シラバス
  - D-14 入門ゼミナールB／和文(情報通信学部)
  - D-15 「総合人文学概論」シラバス
  - D-16 シラバス 医学部\_入門ゼミナールA（大学での学び基礎編）
  - D-17 医学部看護学科シラバス入門ゼミナールB（看護の学び基礎編）
  - D-18 入門ゼミナールAシラバス(農学部)
  - D-19 初年次教育時における「ディプロマ・ポリシー」説明資料(国際文化学部)
  - D-20 大学院必修科目「スポーツ科学総論A（博士前期）」資料
  - D-21 大学院必修科目「スポーツ科学研究理論（博士後期）」資料
  - D-22 2022 年度春\_KGM ガイダンス
  - D-23 国際学部 2022 新入生ガイダンス パワーポイント
  - D-24 2022 年度春学期情報科学科新入生ガイダンス資料
  - D-25 第4回内部質保証推進委員会議事録
  - D-26 健康学部 カリキュラムマップ
  - D-27 観光学部 カリキュラムマップ
  - D-28 建築都市学部カリキュラムマップ

- D-29 東海大学大学院研究指導計画書（サンプル）
- D-30 東海大学大学院研究指導スケジュール（サンプル）
- D-31 2022年度キャリアガイドブック
- D-32 2022年度カリキュラム編成・運用ガイドライン
- D-33 東海大学学修に関する規則
- D-34 2022年度学部「授業についてのアンケート」（学部）
- D-35 2022年度学部「授業についてのアンケート」実施結果
- D-36 「授業についてのアンケート」教員所属別総合評価の推移
- D-37 2022年度大学院「授業についてのアンケート」
- D-38 2022年度大学院「授業についてのアンケート」試行結果
- D-39 2022年度東海大学FD活動報告書（学部等）\_授業形態別平均履修者数
- D-40 2022年度東海大学FD活動報告書（大学院）
- D-41 東海大学オフィシャルサイト キャンパス間留学 <https://www.u-tokai.ac.jp/education-research/transfer/>
- D-42 東海大学オフィシャルサイト 海外研修航海 <https://www.u-tokai.ac.jp/campus-life/challenge/overseas/>
- D-43 東海大学オフィシャルサイト プロジェクト活動 <https://www.u-tokai.ac.jp/campus-life/challenge/>
- D-44 副専攻・特定プログラム\_認定状況一覧(2022年度・2021年度)
- D-45 海外研修航海パンフレット
- D-46 チャレンジプロジェクト 2017-2022
- D-47 ルーブリック導入率
- D-48 コマシラバス
- D-49 東海大学オフィシャルサイト オフィスアワー <https://www.u-tokai.ac.jp/examination-admissions/admissions/campuslife-support/>
- D-50 2022年度 授業形態別平均履修者数
- D-51 大学評価審議会資料
- D-52 文科省「令和4年度の大学等における学習者本位の授業の実施と新型コロナウイルス感染症への対策の徹底等に関わる留意事項について」  
[https://www.mext.go.jp/content/20220318-mxt\\_kouhou01-000004520\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20220318-mxt_kouhou01-000004520_01.pdf)
- D-53 遠隔授業の導入に向けたガイドライン Version2
- D-54 東海大学オフィシャルサイト 現在の「学内警戒レベル」 <https://www.u-tokai.ac.jp/news-notice/52605/>
- D-55 卒業判定会議資料（2022年度第10回学部長会議資料より）
- D-56 東海大学オフィシャルサイト 「4つの力」のアセスメント（ジェネリックスキル測定） <https://www.u-tokai.ac.jp/campus-life/support/assessment4/>
- D-57 「4つの力」のアセスメント COMMUNICATION-NEWS-UP69
- D-58 「4つの力」アセスメント全体傾向報告書（2022）
- D-59 2021年度「卒業にあたってのアンケート」
- D-60 2022年度選出学生の選んだ「いい授業」優秀賞受賞者（東海大学 Teaching

Award)